

平成 25 年度 三重大学教育満足度調査 報告書（概要版）

第 I 部 学部生対象

1. 調査目的

三重大学の中期目標を達成するための措置として、平成 25 年度終了時の学生の満足度の実態を把握し、今後の三重大学の教育改善に資するための基礎資料を得ることを目的とする。

2. 調査概要

- (1) 調査対象 三重大学に在籍する全ての学部生 6,171 名
- (2) 調査時期 平成 25 年 12 月～平成 26 年 1 月
- (3) 調査方法 質問紙調査と三重大学ウェブ調査システムによる調査（以下、ウェブ調査と表記）の 2 種類の方法のうち、学生がどちらか一方を選択して回答した。
- (4) 分析対象者 有効回答者数 1,785 名（28.9%）から、所属が不明な学生と在籍年数が 5 年目以上の学生（医学科は 7 年目以上の学生）を除いた 1,703 名を分析対象者とした。

表1.2.1 分析対象者数

	人文		教育				医		工					生物資源			合計		
	文化学科	社会科学科	学校養成課程	情報教育課程	生涯教育課程	人間発達科学課程	医学科	看護学科	機械工学科	電気電子工学科	分子素材工学科	建築工学科	情報工学科	物理工学科	資源循環工学科	共生環境工学科		生物圏生命工学科	
在籍年数	1年目	19	12	33	21	4	14	12	40	7	6	35	37	39	41	68	34	96	518
	2年目	28	22	28	5	1	9	8	39	27	8	50	18	48	18	25	26	48	408
	3年目	9	35	22	16	1	8	9	26	7	47	51	30	32	2	39	30	33	397
	4年目	16	13	45	12	2	5	10	23	26	35	43	18	41	12	28	17	24	370
	5年目	—	—	—	—	—	—	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3
	6年目	—	—	—	—	—	—	7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	7
小計	72	82	128	54	8	36	49	128	67	96	179	103	160	73	160	107	201	1,703	
(学部ごと)	154		226				177		678					468					

3. 結果

三重大学の教育に関する 46 項目について、平均値と満足群を算出した。

(1) 平均値

満足の程度を表す 6 段階評定において、「非常に不満」を 1 点、「不満」を 2 点、「やや不満」を 3 点、「やや満足」を 4 点、「満足」を 5 点、「非常に満足」を 6 点とし、平均値を算出した。平均値が高いほど、満足度が高いことを表す。各項目に対して学生が経験したことがない場合や知らない場合のために、6 段階とは別に「回答できない」という選択肢を設けた。「回答できない」を選択した学生数を算出後は、欠損値（無回答）と同様に扱った。

(2) 満足群

6 段階評定のうち、「やや満足」もしくは、「満足」、「非常に満足」のいずれかに回答した学生の割合を満足群とした。

3.1 大学全般についての満足度

「2. 三重大学の研究水準について」の満足度が最も高かった。その他には「1. 三重大学の教育全般について」や「4. 事務職員の窓口での学生対応」についても、満足度が高かった。上記の3項目は約80%の学生が満足しており、満足度が非常に高かった。

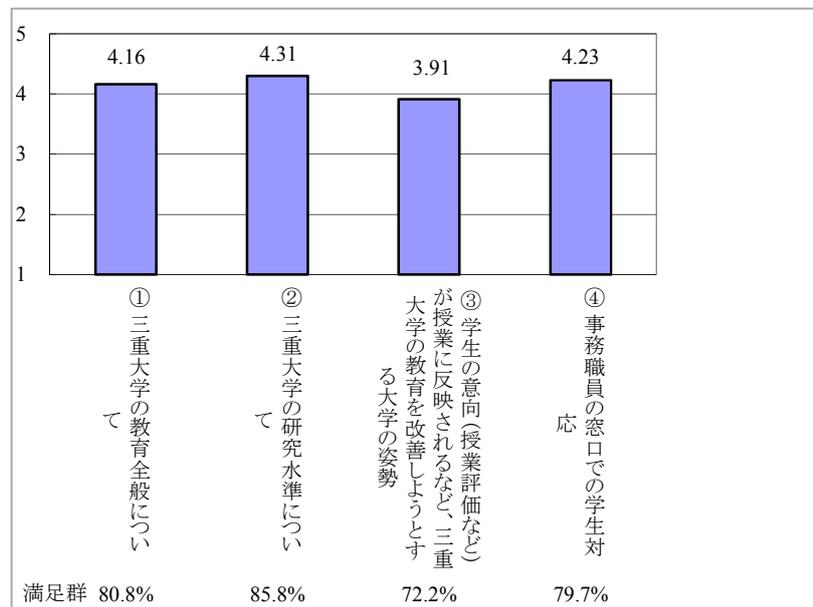


図1 大学全般についての満足度

3.2 学外との連携についての満足度

「5. 留学支援や国際交流」と「6. 現場体験実習やインターンシップなどの機会」の両項目とも平均値が高く、80%以上の学生が学外との連携に対して満足していることが示された。

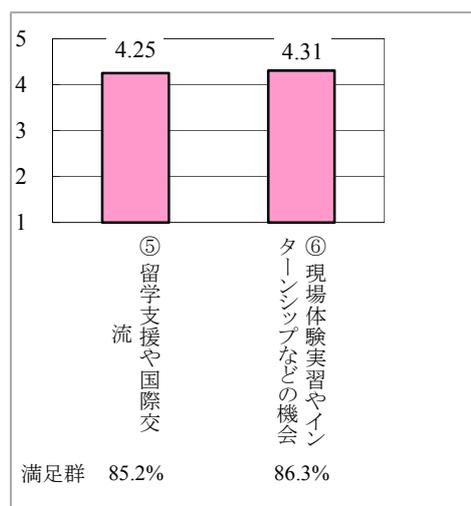


図2 学外との連携についての満足度

3.3 進路支援についての満足度

「7. 職業意識を高めるための教育的支援や就職に役立つような学習に対する支援」や「8. 就職活動に役立つ就職情報提供」の平均値が高く、約 80%の学生が満足していることが示された。一方、「11. 大学院進学に役立つ教育の提供」については、満足度がやや低かった。

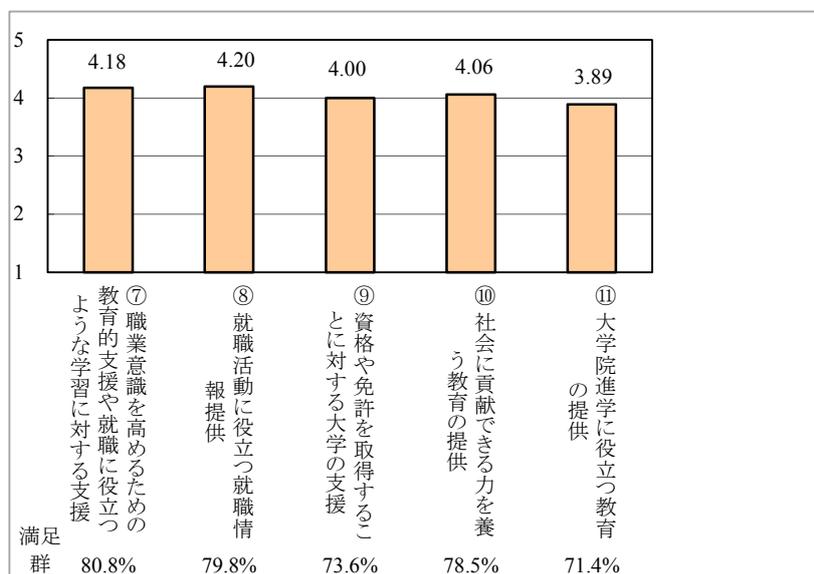


図3 進路支援についての満足度

3.4 学習環境と施設・設備についての満足度

満足度が非常に高い項目が多かった。学習環境や施設・設備について、多くの学生が満足していることが示された。一方、「21. 駐輪場の設置場所や設置数」は、全項目の中で平均値が最も低く、満足に感じている学生は約半数であった。つまり、残りの半数の学生は不満に感じているということである。

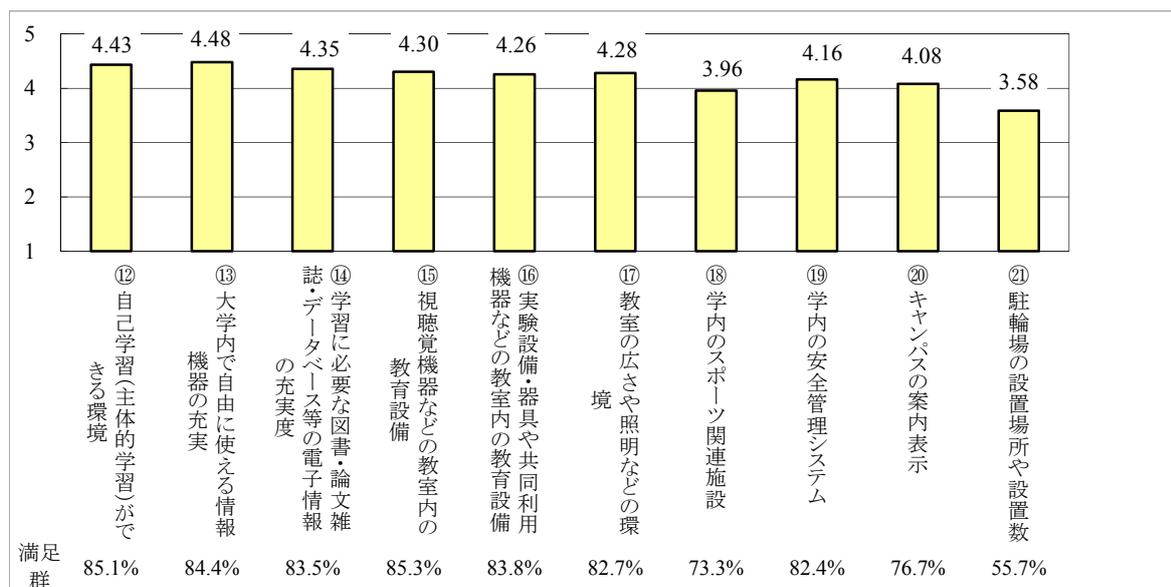


図4 学習環境と施設・設備についての満足度

3.5 評価・カリキュラムについての満足度

他のカテゴリと比べると全体的に満足度がやや低かった。特に、「22. 授業履修に役立つ適切なガイダンス」や「23. シラバスの有用性」の満足度が低かった。一方、「25. 受講したい授業が受けられるシステム」の平均値が4点以上と満足度がやや高かった。

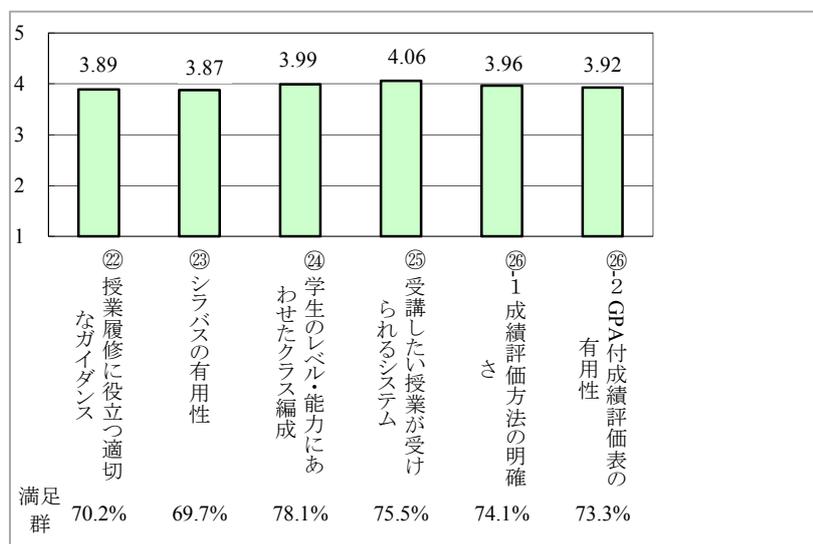


図5 評価・カリキュラムについての満足度

3.6 情報提供についての満足度

「28. ホームページなどによる大学の教育・研究活動の情報提供」の平均値が4点以上と満足度がやや高かった。一方、「27. 休講状況を迅速に学生に伝達するシステム」については、満足を示す学生の割合は少なかった。

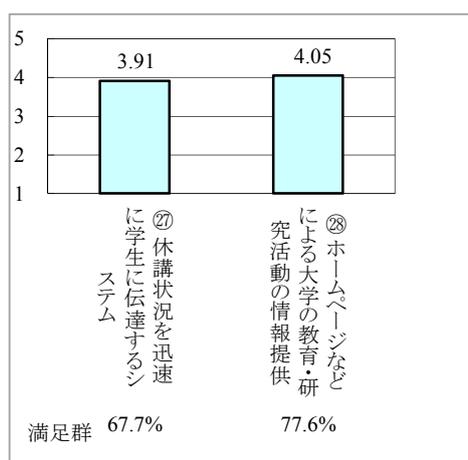
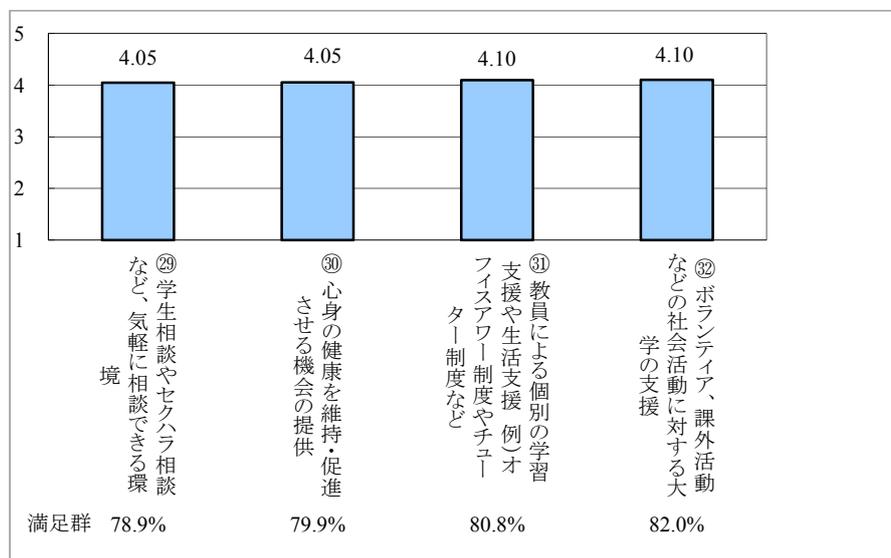


図6 情報提供についての満足度

3.7 学生サポートについての満足度

どの項目も平均値が4点以上と満足度がやや高かった。特に「31. 教員に個別の学習支援や生活支援」や「32. ボランティア、課外活動などの社会活動に対する大学の支援」は、80%以上の学生が満足していることが示された。



3.8 授業についての満足度

満足度の高い項目が多かった。特に、「35. 共通教育の保健体育関連授業」や「36. 33～35 以外の共通教育の授業」、「38. 幅広い教養を身につけられる教育の提供」、「39. 学部専門の授業」、「40. 自分の所属する学部(学科等)のカリキュラム(教育課程)」、「41. PBL などの少人数課題探求型の授業」、「42. 実習をともなう授業」、「45. 卒業研究指導」などの平均値は非常に高く、満足している学生の割合は80%以上であった。このことから、様々な種類の授業に対して非常に多くの学生が満足していることが示された。

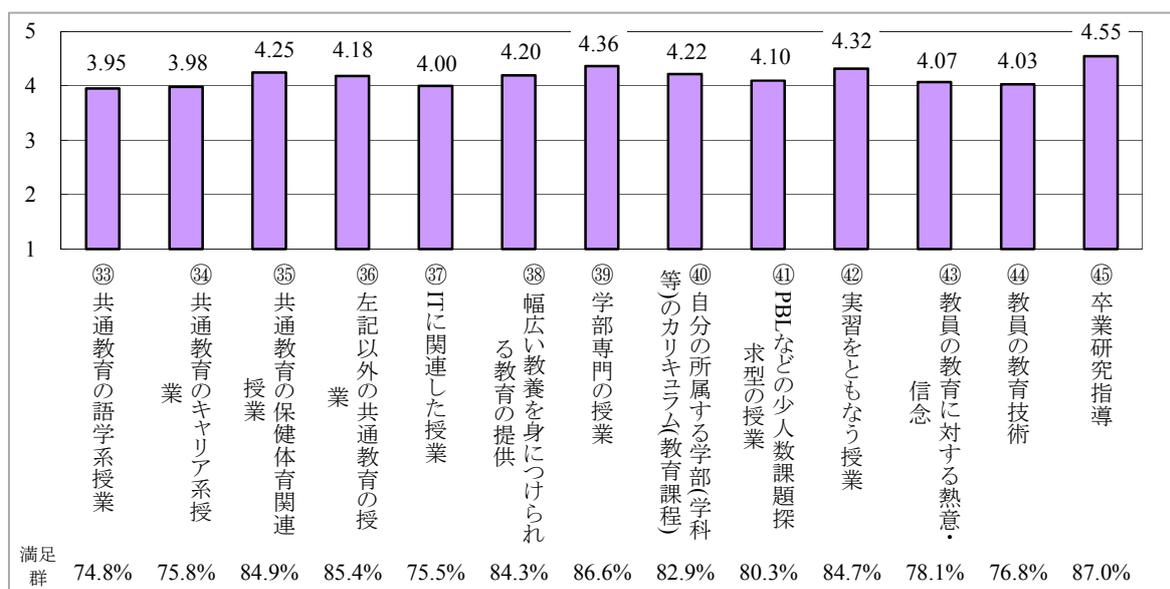


図8 授業についての満足度

第Ⅱ部 大学院生対象

1. 調査目的

三重大学の中期目標を達成するための措置として、平成 25 年度終了時の学生の満足度の実態を把握し、今後の三重大学大学院の教育改善に資するための基礎資料を得ることを目的とする。

2. 調査概要

- (1) 調査対象 三重大学大学院に在籍する全ての大学院生 1,225 名
- (2) 調査時期 平成 25 年 12 月～平成 26 年 1 月
- (3) 調査方法 質問紙調査と三重大学ウェブ調査システムによる調査（以下、ウェブ調査と表記）の 2 種類の方法のうち、学生がどちらか一方を選択して回答した。
- (4) 分析対象者 有効回答者数名 476 名（38.9%）から、修士/博士前期課程の在籍年数が 3 年目以上の学生と博士/博士後期課程の在籍年数が 4 年目以上の学生を除いた 447 名を分析対象者とした。

表1.2.1 分析対象者数

	人文 社会 科学	教 育 学	医 学 系	工 学	生 物 資 源 学	シ 地 域 イ ン フ ォ ー メ ー ション	合 計
修士/博士前期	7	44	28	205	91	13	388
博士/博士後期	-	-	30	16	10	3	59
合計	7	44	58	221	101	16	447

3. 結果

三重大学大学院の教育に関する 23 項目について、平均値と満足群を算出した。

(1) 平均値

満足度を表す 6 段階評価において、「非常に不満」を 1 点、「不満」を 2 点、「やや不満」を 3 点、「やや満足」を 4 点、「満足」を 5 点、「非常に満足」を 6 点とし、平均値を算出した。平均値が高いほど、満足度が高いことを表す。各項目に対して学生が経験したことがない場合や知らない場合のために、6 段階とは別に「回答できない」という選択肢を設けた。「回答できない」を選択した学生数を算出後は、欠損値（無回答）と同様に扱った。

(2) 満足群

6 段階評価のうち、「やや満足」もしくは、「満足」、「非常に満足」のいずれかに回答した学生の割合を満足群とした。

3.1 大学全般についての満足度

(修士/博士前期課程) 「2. 三重大学大学院の研究水準」の平均値が非常に高く、85%以上の学生が満足していることが示された。一方、「3. 学生の意向が教育に反映されるなど、三重大学大学院の教育を改善しようとする大学の姿勢」については、満足度がやや低かった。

(博士/博士後期課程) ほとんどの項目において満足度が高かった。特に、「2. 三重大学大学院の研究水準」は、平均値が4.5点以上と高く、85%以上の学生が満足していることが示された。

どの項目も修士/博士前期課程の学生よりも博士/博士後期課程の学生の平均値が高かった。特に、「3. 学生の意向が教育に反映されるなど、三重大学大学院の教育を改善しようとする大学の姿勢」については、平均値に顕著な差が見られた。

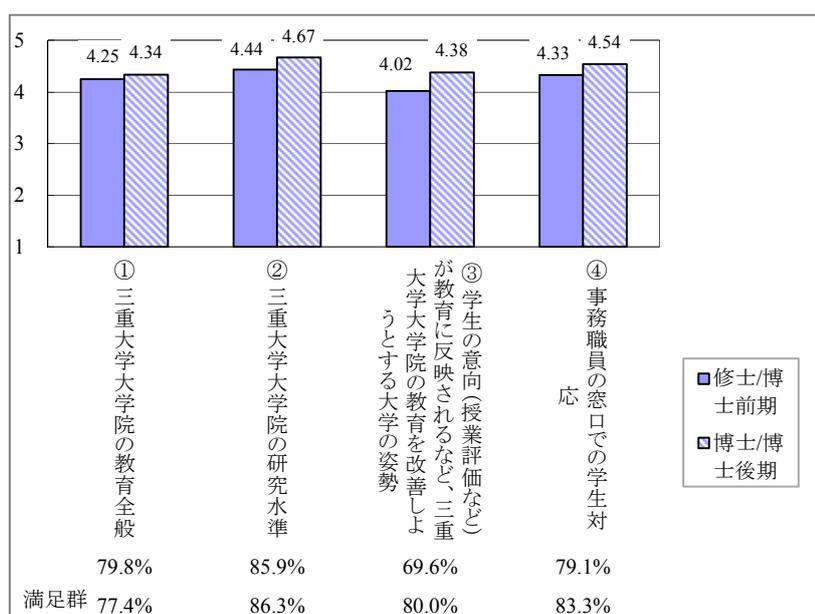


図9 大学全般についての満足度

3.2 大学院の教育についての満足度

(修士/博士前期課程) どの項目も満足度が非常に高かった。特に、「10. 日常的な研究指導」や「11. 学位論文指導」の平均値が4.5点(6段階評定で「やや満足」と「満足」の間にあたる)以上と非常に高く、約90%の学生が満足していることが示された。その他にも「8. 最先端の研究や高度専門知識の教授」など満足度の高い項目が多くみられた。

(博士/博士後期課程) 全ての項目において満足度が非常に高かった。特に、「7. PBLなどの少人数課題探求型の授業」は満足群が88%と非常に高く、「10. 日常的な研究指導」や「11. 学位論文指導」は非常に高かった。

全体的に博士/博士後期課程の学生の平均値が高い傾向があり、特に「9. 現場体験や現場実習」は、両者に顕著な差が見られた。しかし、「10. 日常的な研究指導」や「11. 学位論文指導」については、両者とも平均値が非常に高く、平均値に差が見られなかった。

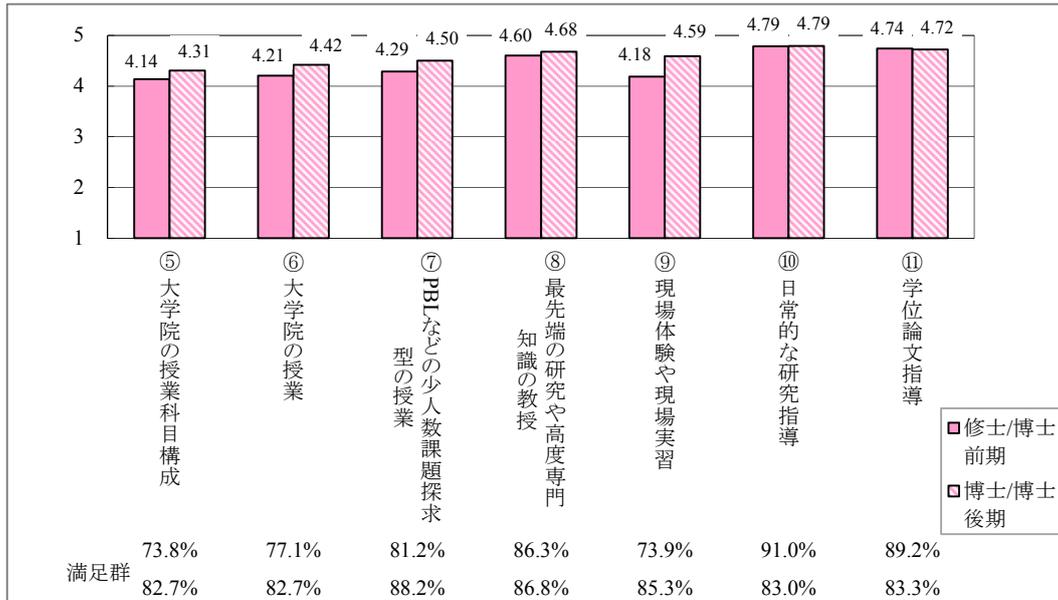


図10 大学院の教育についての満足度

3.3 研究環境についての満足度

(修士/博士前期課程) 「15. 研究室内の人間関係」は、平均値が4.5点以上と非常に高く、約90%の学生が満足していることが示された。

(博士/博士後期課程) 満足度の高い項目が多く見られた。その中でも「13. 研究設備の充実」は、平均値が非常に高く90%以上の学生が満足していることが示された。一方、「14. 研究に必要な電子情報の充実」については、博士課程・博士後期課程の全項目中で満足度が最も低かった。

全体的に博士/博士後期課程の学生の平均値が高い傾向があるが、「14. 研究に必要な電子情報の充実」については、博士/博士後期課程の学生の平均値が低かった。また、「15. 研究室内の人間関係」については、両者とも平均値が非常に高く、満足していることが示された。

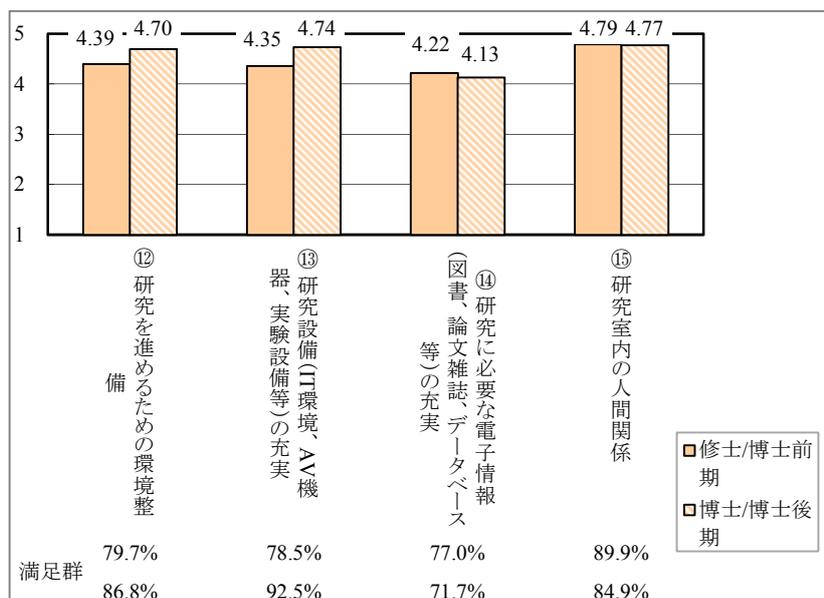


図11 研究環境についての満足度

3.4 学生サポートについての満足度

(修士/博士前期課程) 他のカテゴリの項目と比較すると、満足度が顕著に高い項目は見られなかった。「16. 資格や免許を取得することに対する大学の支援」や「18. 博士課程への進学に役立つ情報提供」などは、平均値が3点台、満足群が60%台と満足度がやや低かった。

(博士/博士後期課程) 「17. 就職に役立つ情報提供などの支援」の平均値が高く、88%以上の学生が満足していることが示された。その他にも「21. 学生相談やセクハラ相談など、気軽に相談できる環境」や「22. 心身の健康を維持・促進させる機会の提供」などは、満足群が85%以上と高い満足度を示した。一方、「19. 社会に貢献できる力を養う教育」など満足度がやや低い項目も見られた。

どの項目も修士/博士前期課程の学生と博士/博士後期課程の学生との平均値に差があったが、特に「16. 資格や免許を取得することに対する大学の支援」や「17. 就職に役立つ情報提供などの支援」、「18. 博士課程への進学に役立つ情報提供」、「21. 学生相談やセクハラ相談など、気軽に相談できる環境」、「22. 心身の健康を維持・促進させる機会の提供」については、両者の平均値に顕著な差が見られた。

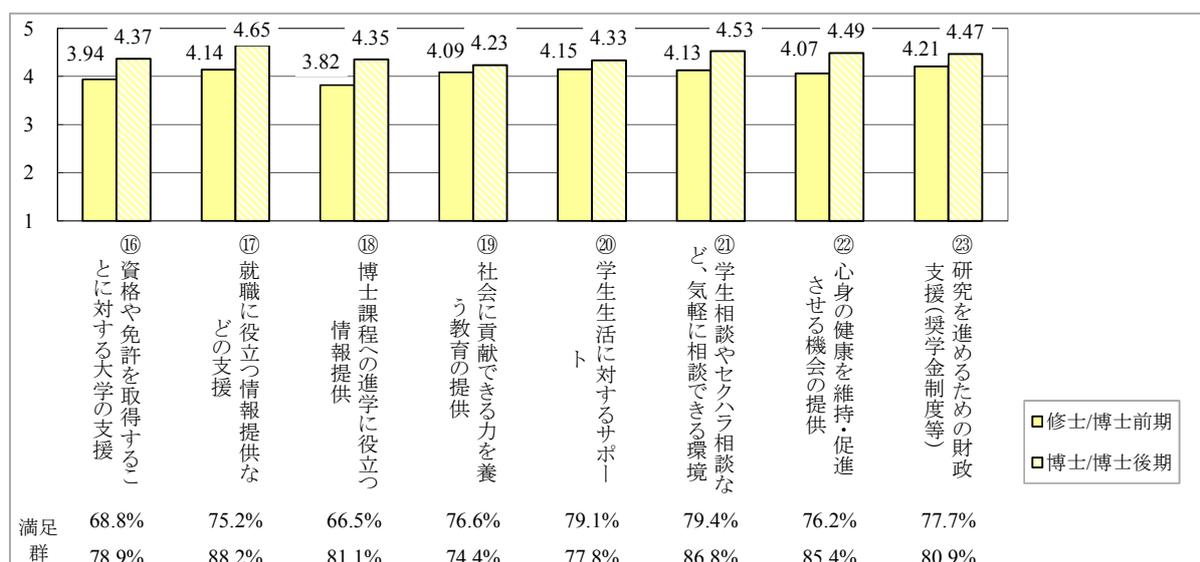


図12 学生サポートについての満足度